

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 高齢者認知症グループホームゆいとり

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900425		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	高齢者認知症グループホームゆいとり		
所在地	〒021-0041 一関市赤荻字月町17番地		
自己評価作成日	令和2年7月7日	評価結果市町村受理日	令和2年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者主体の普通の暮らし」「その人らしい生活」「地域住民と共生できるホーム」を理念としています。一関インターチェンジを下り 近くにある白い建物が当施設です。隣には 同法人内のデイサービスがあります。当施設の周辺には コンビニストア ビジネスホテル ガソリンスタンド 飲食店 温泉等 交通や日常生活に便利な場所にあります。又 施設の裏側には 山 田もあり季節を感じられる部分も多く見られます。認知症の方々の健康維持や機能低下防止にニギニギ体操 頭の体操・等 毎日の活動にとり入れ 利用者の方々の出来る事の可能性を引き出せるように取り組んでいます。地域の方々や家族の方々に支えられ 地域の中のグループホームとして受け入れて頂き 又 利用者 家族 職員との信頼関係を築き 思いを受け止め 努めて対応しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東北道一関インターの東方700m程のところに位置し、隣接して同法人のデイサービスセンターがある開設18年目の事業所である。田や畑に囲まれ北には四季の移り変わりを映してくれる丘陵があり、一方、近所にはコンビニ、大型スーパー、レストラン、薬局、ホテルがある生活に便利な地域である。「利用者主体」「人権保護」「地域住民と共生」を理念とし、その具体化のため毎年「努力目標・実施細目」を設け、職員は各自個人目標を立ててケアに従事している。年6回発行し回覧板を通し地域住民に届けている「ゆいとりだより」に認知症豆知識を連載し、デイサービスとともに地域の高齢者福祉の拠点となっている。市から配備された防災ラジオのほか、自動通報システムには地区代表者を登録し、防災体制も整えている。新型コロナウイルスの感染を防ぐため、検温・手洗い・換気・消毒・マスク着用を徹底し、家族の面会を含む外部との接触を制限している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和2年8月3日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年 施設としての努力目標 実施細目や個人の目標を立て 目標達成に取り組んでいる。運営理念は 食堂内に掲示し意識するように努めている。	開設時に設定した「利用者主体・人権保護・地域住民と共生」の3点の理念を事業所内に掲示し、会議等の場で確認、共有している。理念を受けた今年度の努力目標・実施細目を「一人ひとりの個性や価値観を理解し、安心できる生活を過ごせるよう支援する。」などの3項目とし、それぞれの項目毎に介護の在り方等の具体的事項を掲げ、職員はそれに沿った個人目標を立て、理念を具体化する介護等に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方々には 雪かき作業や踊りの慰問などの他に 野菜を頂いたり 利用者の散歩中には気軽に声を掛けていただいている。地区内の夏祭りがある年には参加する予定である。	事業所として地元自治会に未加入だが、回覧板は加入世帯と同様に届けられている。自治会区長を通して地域との様々な交流があり、年6回発行の「ゆいとりだより」に認知症豆知識欄を設け、回覧板に挟んで地域住民に届けるなど、地域に浸透した事業所となっている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の夏祭りや一斉清掃が中止となり、歌や踊りのボランティアの来所も中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌「ゆいとり便り」は年6回発行。利用者家族や地区の方々へも回覧板で廻して頂いている。施設の活動状況を中心に認知症の豆知識を載せ 認知症についての理解を深めていただけるよう発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回 運営推進会議を開き 利用者 家族 地域の方々に参加して頂いている。施設内の活動状況 課題等を報告し 地域の情報なども意見交換している。※ 会議開催困難の場合には中止のお知らせと 会議資料を家族や地域の方々に渡している。	今年度の運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面でのやり取りとなっているが、年6回、定期的に開催している。利用者や家族は、地域の方々と共に委員として参加している。この3月で家族会は廃止となったが、運営推進会議は、家族の意見等を把握できる良い機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には介護保険課職員の出席や時には市の介護相談員が来所し 利用者の方々とコミュニケーションをとっていただき 意見や情報交換等を行っている。不明な点なども 都度電話等で相談に応じて頂いている。	定例の運営推進会議の場を活用しながら、市担当者と情報交換を行っている他、普段からメールやファックス等でやり取りをしている。市の介護相談員の事業所訪問もあり、利用者は、面談を通して意見や情報交換をしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会 年4回開催実施(5月8月11月2月予定) 身体拘束についての学習会も年2回 行う予定である。年間を通して全職員が身体拘束研修会に参加できるようにしている。現在身体拘束を実施した事はなく 研修会ではレジメや映像から拘束となる事例を考える機会となっている。夜間は防犯の為 外、内玄関の施錠を行っている。	身体拘束廃止委員会を年4回開催し、マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアを実践している。居室には、利用者の転倒防止を目的とした離床センサーを設置しているが、利用者の行動制限はしていない。介護の場面でスピーチロックにならないように、職員全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内学習会学習会では 虐待についての内容を重視し常に気をつけ 注意 指導等職員間で話し合える環境整備に努めている。又 虐待防止のポスターを掲示し意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について 職員の理解を深められるよう施設内学習会を行っている。市の後見人制度についての講話を機会があれば受ける予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明を行い 内容の理解納得して頂けるよう努めている。介護報酬改定や利用料金の変更の際には 説明会を開催し承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族を招待しての誕生会や面会時に家族の意見を伺っている。又 運営推進会議へのご案内を出し 参加して頂き 地域の方々ともに要望等 意見交換している。	居室担当者が利用者一人一人の生活や健康面の状況を毎月手紙で家族へお知らせしている。家族から歩行力低下を不安に思っているとの声があり、支援に活かしている。新型コロナウイルス感染症対応のため面会が制限されており、電話等で意見の把握に努めている。自発的に意見や要望を話す利用者は少ないが、職員は選択肢を上げて聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では 行事の反省や気づきなど次回に向けての取り組み、改善点について話し合っている。日常の職員の意見や提案 連絡等は「連絡ノート」を用い 職員全員が確認し内容を把握できるようにしている。	日々の申し送りや毎月の会議、カンファレンスで職員意見の把握に努め、年度末には管理者が個人面談を行っている。職員の提案で、通院等の業務に対応する早番制を導入したり、排便後の清拭タオルの無駄を省くため不用布に切り替えている。	

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や賞与支給 年次休暇があり 仕事のやりがいに繋がられている。勤務希望も可能な限り希望に沿うよう組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月 施設内学習会を職員持ち回りで開催している。歯科医師による口腔ケア研修(毎月)にも参加。認知症実践者研修や初任者研修などのステップアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国や県のグループホーム協会に加入している。法人内でアメーバ経営に取り組み 毎月 事業所ごとの取り組みの発表等 意見や情報交換を行い お互いの施設がサービス向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅等に訪問させて頂き 生活環境や体調面等を把握するようにしている。ご本人の不安を軽減 安心できる雰囲気の中で話を聞き 意見 要望 思いを共感できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の際 家族の困り事 不安に感じている事等を 傾聴する姿勢で伺い 家族の意向 要望等を把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の問い合わせには出来るだけ 本人や家族に施設見学を勧め 日中の活動や雰囲気を見て頂くようにしている。又 地域や同法人内のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの力量に応じた活動、作業と一緒にしながら コミュニケーションをとり都度感謝の気持ちを伝えている。作業等も習慣化され 役割意識を持ち 自信に繋がられている。		

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月 家族へ生活の様子などの近況をお便りでお知らせしている。又 体調の変化がある場合等には 状況に応じ家族と連絡を取り 利用者を中心に お互い出来る事を話し合い 支え合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じディサービスを利用していた方の友人や家族 親類の馴染み深い方々が来られ 交流がある。施設と同じ地区内から入居された利用者もおり 散歩中や 床屋、慰問に来られた知り合いの方々に声を掛けて頂いている。	利用者は、事業所での生活が長くなるにつれ、年ごとに馴染みの関係が希薄になっているが、かつての友人や知人、家族等は、継続して面会に来ている。面会者が来訪された際には、居室でお茶を共にしながら、ゆっくりしていただけるように支援している。しかし、昨今の新型コロナウイルス感染症対応のため、面会の制限や禁止をしなければならない状況にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や相性等を把握しながら 利用者同士の関係が良好に保てるようフォローし支援している。又 廊下に置いてあるソファ前にテーブルを置き 利用者同士 気軽にふれあう場が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたり 入院のため退所された利用者の方へ 面会や様子を伺うようにしている。家族から相談事がある場合には 都度 対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションを積極的にとり 本人の思いや希望を把握できるようにしている。ケアプラン作成には センター方式やひもときシートを活用し 生活状況 体調 表情 行動等の情報を収集し 本人の思いをくみ取りながらケアプランに反映させている。	センター方式やひもときシートを用い、また生活歴を参考としながら、職員は、利用者の仕草等を観察して、思いや意向について、気づき、感じ取るよう努めている。日常の介護の場面でのスキップを大切にしながら、利用者が希望等を話しやすい雰囲気づくりに努めている。入浴時など気分の良いときに聴き取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族 居宅のケアマネから生活歴等の情報収集している。入居後も家族 本人から詳しい情報を得られるように している。又 日中活動に回想法を取り入れ 暮らしや生活環境等の情報を引き出すようにしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの個性を尊重し コミュニケーションをとりあう中で 状態を把握し 出来る事を見出すようにしている。又 見出した力が発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人 家族の要望や必要な支援等を把握しケアプランを作成している。毎日のケア記録 ケアチェックから毎月 モニタリングとケアプラン開始の2~3か月後に中間カンファレンスを行なっている。ケアプランは6か月毎に作成しているが 状態の変化等に応じてケアプランの内容の変更を行っている。	介護計画に沿って日々チェックを実施し、毎月担当者がモニタリングを行っている。2、3か月毎に本人や家族の意向も取り入れ、職員で中間カンファレンスを実施している。その後、医師や看護師からの情報を加味し、ケアマネが6か月毎に見直し、修正して次のプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を個別に観察 記録し毎日のケアチェック表で確認している。職員間での気づきや対応の変更、継続、工夫等を連絡ノートや申し送りで情報を共有し 意見交換 ケアの統一を図る等見直しに活かしている。※利用者のトラブル回避のため席替えを行った。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者 家族の状況から 個別での買い物 通院支援(移送 同行受診 代理受診...)等を 都度 家族と相談しながら行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の老人クラブによる歌 踊りの慰問の訪問や 近くへの散歩時に地域の方に声を掛けて頂き会話も弾む。市の一斉清掃に合わせゴミ拾いや 地域のお祭りがある場合には参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は 在宅からの継続や状態により通院先の変更には 家族と相談して決めている。受診の際には状態により家族と一緒に職員も同行や 家族の都合に合わせ職員対応で受診を行っている。日頃の様子等を細かく医師に伝え 医師の指示を受けている。又 状況に応じて往診対応して頂いている。	利用者は入居前からのかかりつけ医に通院し、家族同行は5人、他は職員が同行している。日頃のバイタル等の情報をメモで家族から医師に届けているが、医師から要望や指示があった場合など、必要に応じて柔軟に職員が同行して対応している。非常勤の看護師は、バイタル測定や通院対応など、日常の健康管理を担当している。	

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回半日出勤の際には 利用者の状態報告等情報を共有し 必要な処置や通院等の相談等指示を受けている。又 介護職員が必要な情報提供や判断を求める場合は 都度 電話等で連絡を取り合っている。体調悪化が心配される場合には 家族に説明や相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ必要な情報を提供し本人家族が混乱しないよう支援している。可能である場合の面会や 家族 病院へ問い合わせ等で入院中の状態を把握できるよう求め 退院後のケアや環境整備等の対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として出来る事 出来ない事を説明し 次の段階に繋げられる対応をしている。体調の悪化が心配される利用者に対応に 都度 遠方の家族に連絡を取り 思いに添えるよう 何度も家族と話し合いを重ね 家族 施設の看護師や介護職員 医師と 利用者対応について方向性を合わせる事が出来た。	事業所として「看取りに関する指針」を策定し、関係者に説明して方針を共有している。昨年は、家族からの強い希望があり、かかりつけ医の協力を得て、看取りを行っている。今後も、本人の意思を最大限に尊重すると共に、家族の意向を尊重して対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による応急処置講習を学ぶ予定にしている。また 夜間帯の急変等の時には 看護師に応援依頼し 指示や応急手当 消防の救急要請等の協力を頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 隣接するディサービスと合同で総合防災訓練を行っている。自動火災通報器の連絡網に地域代表の方を登録し協力をお願いしている。災害時用の懐中電灯を裏口や 廊下に用意し備えている。	災害時対応マニュアルを作成している。当地域は、ハザードマップ上で危険区域外となっていることを確認している。防災訓練は、隣接するディサービス事業所と合同で、年2回実施している。災害時用として、水、食料、電池、反射式ストーブ、防災ラジオ、紙おむつなどを備蓄している。	ハザードマップでは危険地域ではないが、想定を超える災害が各地で発生しており、夜間を想定した避難訓練の実施や非常口の確保を図り、利用者の安全な避難の一層の充実を期待したい。

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の個性を理解し 本人に合わせ対応している。トイレ誘導や入浴介助時には さりげない声掛けで羞恥心を感じさせないよう配慮している。又 プライバシーに関して 施設内学習会で行う予定である。	理念の「利用者主体」「人権保護」を重視し、利用者一人一人の特性を十分に把握し、敬意を持ち丁寧な介護に努めている。トイレ誘導や排泄介助は小声での声掛けをしている。居室へ入る際はノックと声掛けをし了解を得るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会の食事メニュー おやつ 飲み物の選択等 日常的に本人の希望を聞き 自己決定しやすいような声かけを行っている。(2択など..)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の活動等 気乗りしない場合には 自室や共有スペースでそれぞれ過ごして頂いている。外に散歩に出たい等の希望など 利用者のペースに合わせた過ごし方や希望に沿った生活が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の際には その場に合う服装をさりげなく勧めたりしている。入浴後の着替えも自分で用意して頂いたり 職員が聞きながら行っている。2カ月毎に 馴染みの床屋さんが来られ コミュニケーションをとりながら散髪して頂いている。家族が 外出時に床屋さんに連れていくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い 利用者の好む物を取り入れたメニューを提供している。時々はお前をとることもある。調理の下ごしらえ トレーや箸の用意 盛り付け 食器拭き等の作業をお願いし 職員と一緒に頂いている。	冷蔵庫の食品やまとめ買いしてある食材を用い、その日の当番の職員が、食材を見ながら利用者の希望を聞いて献立を立て、調理している。利用者は下拵え、テーブル拭き、片付けなどのお手伝いに参加している。法人の栄養士のアドバイスを得て栄養のバランスを取っている。感染症対策として、職員は弁当を持参し、時間をずらして食べている。	

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一食に10品目以上「ま、ご、は、や、さ、し、い」の各栄養素が摂取できるように気をつけている。又 お粥や刻み食 ペースト状の調理も 利用者の状況に合わせ提供している。食事量 水分量のチェックし 特に夏の暑い時期には脱水や低栄養に注意し 食欲不振の方には栄養補助食品を検討し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きが出来る方には声掛けし 介助が必要な方には歯ブラシ等の準備や義歯洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。気分によって歯磨きが出来ない方もおり 時間をずらしたりタイミングを見ながら声を掛け実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中 夜間とトイレでの排泄を基本としているが利用者の状況に合わせ実施している。排泄チェック表から 排便 排泄の間隔を把握し 定期的な声掛けやトイレ誘導で パットのあて直し等の 出来ない部分を支援し 排泄の自立を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、こまめに観察記録した排泄チェック表を基に、自立に向けた支援をしている。布パンツ、紙おむつ、リハビリパンツ等は、利用者の状態に合わせて検討されている。排泄確認を嫌がる利用者もおり、気持ちよく排泄できるように配慮した対応を心がけている。在宅時紙パンツ使用の方で、入居後布パンツとなった方がいる。夜間居室でのポータブルトイレ利用は1人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に 野菜 果物を多く使用し 食物繊維を取り入れるようにしている。ヨーグルト 牛乳などの乳製品も毎日 メニューに入れ提供し 便秘予防に努めている。便秘症状が強い方には オリゴ糖や本人に合った薬を服用して頂き 排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回 入浴して頂いている。本人の希望に合わせて 入浴して頂けるようにしている。入浴を好まない方には 声掛けの工夫や時間を置いて再度 誘う等し タイミングを図りなが支援している。	日曜を除き午前・午後入浴可能で、一人一人の希望に沿って対応し、その日に入浴希望があれば、いつでも対応できるようにし、週2、3回は入浴している。季節により菖蒲湯や柚子湯を楽しみ、入浴中は歌を口ずさんだり職員との会話が弾む。入浴を避けたがる時は、無理強いせずに、時間を置いて再度声掛けをしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は 各居室でゆっくり休めるようにして頂いている。疲れが見られる利用者には 職員から声を掛け休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で服用している薬について確認するよう努めている。薬の変更時には 用法や副作用等注意すべき事を連絡ノートや申し送りで 確認し職員全員が把握している。看護師 医師へ経過報告 相談し 薬の調整等の指示を受け様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々の力量に合わせ 洗濯物干し たみ物や食器拭き作業 食事の準備等の作業を行って頂いている。他 季節ごとに生け花を生け 花の好きな利用者さんが 水を代えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブ 散歩等 できる限り 戸外へ出て季節などを感じて頂けるよう支援しているが ウイルス感染予防のため 今現在は 外へ出ることを自粛している。状況を見ながら 近くへの散歩や車での移動ドライブに行き始めている。家族からも 外出 外泊希望があれば可能な限り支援している。	今までは、外食、ドライブ、散歩等、出来る限り戸外に出るよう支援してきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出を自粛し、外出する機会は少なくなっている。事業所の周辺を散歩していると、知人から声を掛けられることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や貴重品の管理が困難な方が多く 利用者の方全員が 施設で金銭管理を行っている。財布やお金を持ちたい方には 自己管理で施設管理の財布以外に所持して頂くようにしている。家族が来所した際に 出納帳を確認後に確認印を記して頂いている。家族からの入金の際には 預り証を発行し渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の方が 自分で電話をかけることはないが希望があれば 職員が取次ぎ電話に出ている。又 職員へ家族からの問い合わせ等の電話がある時にも 可能であれば電話に出て頂いている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者認知症グループホームゆいとり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集う食堂や廊下に 季節の花や室内装飾 手作りカレンダー等の 季節感のある環境を作るようにしている。又 各居室に温度計を設置し 必要に応じてエアコンや加湿器等の温度 湿度の調整を行っている。	食堂兼ホールは南に面し明るく開放的である。壁面には利用者と一緒に作った紫陽花の作品が飾られ、七夕飾りも下げられている。かつて家庭でよく使われていた桐箆箆がリビングに置かれ、利用者だけでなく家族や職員にとっても、懐かしさや心穏やかな情景を醸し出している。利用者は、テレビ・新聞・本などを見ながらゆったりと過ごしている。エアコン・加湿器で快適な温度・湿度が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士の席を近くに寄せ 気軽に話しあい過ごせるようにしている。又 廊下に数カ所 長椅子やテーブルを用意し 好きな時に外を眺めてみたり 数人で日向ぼっこをして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には アルバム 家族の写真やカレンダー ぬり絵の作品等が置かれている。寝具類は自宅で使用していた物を持参して頂いている。家具の配置も 利用者が動きやすいように 家族とも話し合いながら設置している。	エアコン・ベッド・タンスが備えられ、寝具類は持ち込みである。利用者は衣服・時計・カレンダー・ぬいぐるみ人形・写真など持ち込み、壁面に塗り絵・写真・色紙などを飾り、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し 居室やトイレ等の場所や タンスの引き出しに中身がわかるよう表示し わかりやすいようにしている。転倒が考えられる方には 離床センサーを使用し 転倒防止対策し 見守りを行い 必要に応じて 声を掛け誘導している。		